

国立公園周辺の宿泊施設

ブンチャックからチボダス地域には、たくさんのホテルや民宿など多くの宿泊施設があります。インターネットやガイドブックにも多数紹介されています。一部、紹介させていただきます。

PUNCAK PASS RESORT

ブンチャックにあるホテル。オランダ統治時代からあるお菓子「Hollandsche Poffertjes」でも有名。暖炉のある部屋もありとてもロマンティック。

1泊: 500,000Rpから
Phone: +62-263-512503
Web: www.puncakpassresort.com

INKARLA

チボダス植物園および国立公園にほど近いきれいなホテル。ツインタイプの部屋や1軒家を借りるタイプの部屋がある。施設内には多数の花が栽培されていて綺麗。

1泊: 333,000Rpから
Phone: +6281912192518 (Yeni)

FREDDY HOME STAY

Lonely Planetにも紹介されているバックパッカー御用達の民宿。ご主人は英語やオランダ語も堪能。バードウォッチャーの集う場所でもある。

1泊: 100,000Rpから (朝食付)
Phone: +6285720373169 (Mr. Indra)
Web: http://if-ecoadventureres.com

KOPERASI EDELWEISS WISMA TAMU

国立公園事務所内にある宿泊施設。お湯シャワーも完備されている。国立公園のレンジャーや青年海外協力隊員に公園のことについていろいろ聞くことができる。

1泊: 850,000 (1軒屋貸し。10名程度可)
Phone: +6281380790235 (Agay Koperasi Edelweiss)



Puncak Pass Resort



INKARLA



Freddy's Home Stay



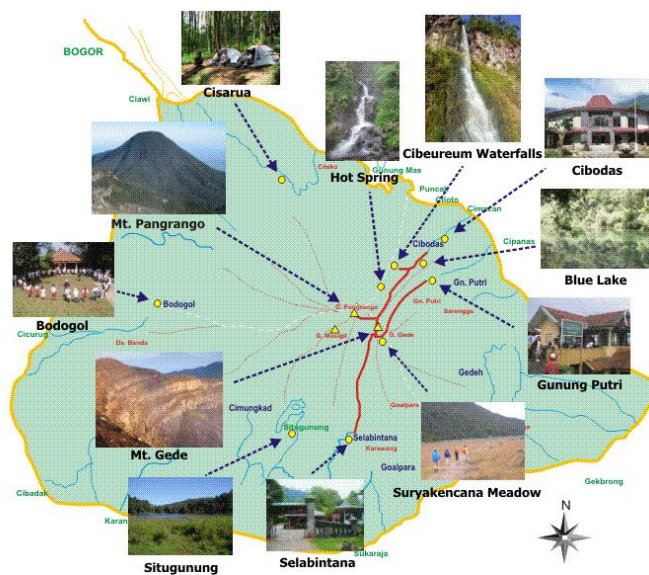
Wisma Tamu

ゲデ・パンランゴ国立公園へのアクセス

車を利用する場合

ジャカルタから高速道路に入りボゴール方面へ。高速道路出口ガドグ (Gadog) を出てブンチャック/バンドゥン方面に向かいます。ブンチャック峠を越えて7.6km、アウトレット「DSE」の先の三叉路を右折し (左手に国立公園の看板あり)、直進約3kmでチボダス観光地区の入場ゲートに着くので入場料を払います (乗用車Rp. 6,500、入場料Rp. 2,000 注: この入場料は、地方自治体へのもので、公園利用料が別途必要です)。左手にチボダス植物園を見ながらさらに直進した右側、マンダラワンギ (Mandalawangi) 駐車場の隣が国立公園管理事務所です。公園管理事務所の駐車場が無料で利用できます

バスを利用する場合



Jl. Raya Cibodas Po.Box 3 Sdl
Cipanas-Cianjur 43253, INDONESIA

Phone: +62-263-512776
Fax: +62-263-519415
web: www.gedepangrango.org
公園事務所受付時間
8 : 00 ~ 15 : 30 (平日)

*現在 (2010年3月まで)、青年海外協力隊員が常駐しております。下記まで事前にご連絡いただければ、無料で公園の案内をいたします。日本語でお気軽にお問い合わせください。なお、本リーフレットに記載されている情報は青年海外協力隊員が集めた情報をもとに作成しましたが、宿泊費や交通事情は頻繁に変化します。最新の情報をご確認のうえ、各自の責任でお楽しみください。

email: yoshi.gede@gmail.com [Japanese]
info@gedepangrango.org [English]



Taman Nasional
Gunung GEDE PANGRANGO
National Park

グヌングデパンランゴ国立公園ご案内



登山

環境教育

滝

バードウォッチング

自然観察

"By far the most interesting incident in my visit to Java was a trip to the summit of the Pangerango and Gedeh Mountains" ..

[Alfred Russel Wallace, 1861]

ゲデ・パンランゴ国立公園

インドネシア・西ジャワ州・チアンジュール

www.GEDEPANGRANGO.org

国立公園概要

グデ・パンランゴ国立公園は、1980年にインドネシアで初めての国立公園として指定されました。ジャカルタからわずか100kmにありながら、21,975haの広大な美しい熱帯林を有し、国鳥であるジャワクマタカ、絶滅危惧種であるジャワテナガザルやアカガエル、そしてエーデルワイス (*Anaphalis javanica*:キク科ヤマハハコ属) など貴重な動植物の重要な生息地となっています。国立公園は、チアンジュール、ボゴール、スカブミの3県にまたがっています。この地域はユネスコのMAB計画(人間と生物圏計画) 地域にも指定されていて、国際的にも注目されている地域です。公園の管理事務所



ジャワテナガザル

エーデルワイス

アカガエル

は、チアンジュール県チボダス (Cibodas) にあります。避暑地としても有名なチボダス・ブンチャック地域は、国立公園に隣接するチボダス植物園、市場で近隣の畑で取れた新鮮で安価な野菜やフルーツ、お土産品を求める人で賑わいます。グヌングデパンランゴ国立公園では、登山、滝へのハイキング、バードウォッチングが楽しめるほかに、ランなどの植物観察や薬用植物についても学ぶことができます。

現在、グデ・パンランゴ国立公園では、自然の保護と公園の持続的な利用を可能にするエコツーリズムプログラムを開発中です。

登山について

公園内には公園名の由来でもあるグデ山 (2958m) とパンランゴ山 (3019m) の2峰があります。往復でおよそ10~12時間かかります。日帰りも可能ですが、1泊2日の登山が一般的です。2009年9月から、全ての登山者は、安全確保およびトレイル保護のため、公園が認定した現地のガイドを伴うことが義務づけられています。1~3月、また8月は気候不順、植生回復のため登山が禁止されています。登山には許可書 (SIMAKSI) が必要で、公園事務所にパスポートやKITASなど身分証明書を持参し、事前に取得する必要があります。登山当日でも取得可能ですが、事務所は8時からとなっておりますので、早朝からの登山希望の方は事前に許可書を取得してください。

ガイドは公園で斡旋しています。詳しくはお問い合わせください。

入山許可書代 : Rp.20,000/日/人

保険料 : Rp.2,000



滝への散策について

チブルウムの滝への散策は、特別な許可はいりません。公園の入り口で直接、**入園料20,500Rp (保険料を含む)** をお支払いください。滝までの道はきれいに整備されており、普通の運動靴程度でいくことが可能です。滝までは片道2.8kmで、所要時間は片道およそ1時間30分です。途中には、テラガビル (青い沼)、木道が整備された湿地などがあります。滝の近くは開けた土地になっていますので、シートなどを広げてゆっくり滝をみながらお昼をとることもできます。ただ、売店などはありませんので、各自で御用意ください。なお、滝までの散策は通年オープンしております。



キャンプについて

公園内には3カ所のキャンプ場があります (チアンジュール、チサルア、ポンドックハリムン)。また、スカブミ県のSitugunungには、公園隣接地域に「RAKATA Adventure」という民間のキャンプ施設があり、こちらは施設が充実しておりホテル並みのサービスを受けられます。ご希望にあわせてご利用ください。施設の場所は、公園に直接お問い合わせください。

公園キャンプ料金例 :

キャンプ代	Rp. 4,500Rp/日/名
4人用テント代	Rp. 60,000Rp/1晩
山羊の丸焼き	800,000Rp/1頭



Tanakita-Rakata

RAKATA Adventure

電話 :	+62-21-7243252
1泊 :	Rp. 450,000

エコツーリズムや自然観察について

これまで、国立公園ではガイドや自然観察活動は、様々な組織や個人でばらばらに行われてきましたが、2009年7月1日より国立公園と鳥類保護のNGOのRCSが共同でガイド組織の運営を始めました。登山ガイド、英語ガイド、バードウォッチングガイドなどの料金体系を整備し、学校単位、グループでの自然観察会、公園職員による出前授業なども受け付けております。どうぞご利用ください。

担当 :

Didin (国立公園職員)
携帯 : +628121807511
Usep Suparman (ガイド組合)
携帯 : +628569087504

料金一例 :

登山ガイド	325,000Rp/1日
英語ガイド	400,000Rp/1日
滝までの自然解説	175,000Rp/1日



地域住民の生活支援を考えた植樹活動

当国立公園は、2003年の国立公園面積の拡大にともない、拡大地域に農地があったため自動的に違法耕作者を含んでしまうことになりました。本来は、公園内では耕作は認められていませんが、従来からの耕作者を強制的に排除することは難しいため、農民の生活支援を考えながら、順次、公園域外への移動を進めています。そのひとつが「Adopsi Pohon」プログラムです。これは、拡大地域の畑に、ラサマラやブスパと行った在来種による植樹を行い、植樹後の世話を3年間、畑の所有者にお願いし、無事育った樹木の本数に応じて、農民に対して耕作以外の生活手段の支援を行うという植樹プログラムです。このプログラムはCII (コンサベーションインターナショナルインドネシア) と共同で行っています。植樹は1本につき、Rp100,800です。これまでは、企業による寄付が中心ですが、個人で植樹を行う場合はジャカルタの環境系ラジオ放送局の GREEN RADIO が窓口となり、個人の寄付を集めて、一定の本数になると植樹を行っています。

担当 : Andie (国立公園職員)

携帯 : +6281808597163
Agus Sriyanto (GEDEPAHALA)
携帯 : +6281310959904
89.2 FM GREEN RADIO
Phone: +62-21-8573388 内 114
携帯 : +6281573733991
Web: www.greenradio.fm



日本とのつながりについて

当国立公園は、ジャカルタから近いこともあり、日本との関係がいろいろとあります。例えば2002年からJICA国際協力機構から青年海外協力隊員が環境教育の分野で派遣されており (現在、3人目)、インフォメーションセンターの展示の充実、登山道の管理計画、地元の学校での環境教育の実施などの分野で活躍しています。また、シャープ、ダイキン、大日本印刷、群馬サファリパークといった日本の企業の寄付により植樹が行われています。また、パンランゴ山を水源とする唯一のミネラルウォーター「プリスティン」も日本トリムとインドネシアSINARMASとの合弁会社PT Super Wahana Tehno によって生産されていて、公園の環境保護活動を協働で行っています。



地域住民による植樹



青年海外協力隊活動